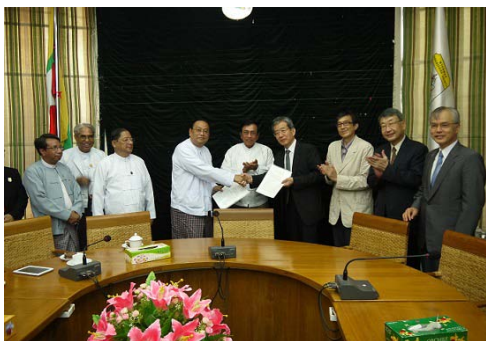


国際センター通信 (No.11)

土木学会・ミャンマー工学会ジョイントシンポジウム報告

ミャンマー連邦共和国では、近年、アジア最後のフロンティアとして投資熱が高まっていますが、今後期待される経済成長を支えるためのインフラは著しく不足しています。港湾、道路、鉄道、電力といった多岐に渡るインフラの整備を短期間で効果的に進めていくためには、単に外国からの資金援助や技術支援に頼るだけでなく、現地の技術者を育成することも重要です。

土木学会としてもミャンマーの土木技術者育成に貢献すべく、国際センター内にミャンマーグループを発足させ、当地の工学系学会である Myanmar Engineering Society (MES) との関係構築を模索しているところです。その第一歩として、2013



MOU の締結

年 7 月 26 日に MES-JSCE Joint Symposium をヤンゴンで開催しました。土木学会からは、橋本会長、森地元会長、上田国際センター長、山川国際センター長代行をはじめ 15 名を派遣しました。シンポジウムに先立ち、MES と土木学会の間で MOU 締結のセレモニーが行われ、MES の Win Khaing 会長と橋本会長が署名し、両学会の今後の交流を約束しました。セレモニーには Kyaw Lwin 建設大臣、Han Zaw 前 MES 会長（平成 21 年に土木学会国際貢献賞を受賞）も同席されました。



土木学会 国際センター
ミャンマーGリーダー
清水 哲夫

シンポジウムは 230 名出席と大盛況で、建設大臣の祝辞と両学会会長の挨拶に始まり、①技術基準整備戦略、②技術者教育のあり方とその実践、③具体の建設技術の 3 つのセッションで MES から 6 件、土木学会からは 5 件の計 11 件の発表がありました。ミャンマーのインフラ整備技術は橋梁では比較的高い水準にあるようですが、自前の技術基準がないことが喫緊の課題だと考えられます。同時に、インフラ整備に果たす高等教育機関の役割も決して大きくなく、技術者育成カリキュラムや研究者養成スキームの整備も急務です。シンポジウムは今後定期的開催できればと考えておりますので、これらの課題解決に向けて会員諸氏からのご支援をよろしくお願い申し上げます。



橋本会長の講演



シンポジウムの様子

留学生向け企業説明会の開催報告(国際センター留学生 Gr.)

留学生グループでは、日本で学ぶ留学生に日本の土木関係の企業を知ってもらうとともに、就職情報の提供の機会として、7月6日(土)に留学生向け企業説明会を土木学会(東京)にて開催しました。企業13社からの協力を頂き、8社からのプレゼンと並行し、企業ブースによる個別説明とパンフレット配布をしました。参加留学生は55名で、主に関東の大学からの参加でした。



土木学会 国際センター
留学生G リーダー
長井 宏平

【参加企業】

(株)エイト日本技術開発、(株)大林組、大林道路(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)片平エンジニアリング、清水建設(株)、JFEエンジニアリング(株)、(株)長大、戸田建設(株)、NEXCO 東日本、(株)ネクスコ東日本エンジニアリング、日本工営(株)、日本道路(株)

企業説明会の冒頭では招待講演として、ベトナムからの留学生として来日し、現在は清水建設で活躍するファン ハウ ユイ ウォック氏より、自身の留学生としての経験と日本企業で働くことについて、先端技術や大型プロジェクトに関係することの利点を交えお話があり、留学生にとって貴重な機会となりました。続いて各企業からプレゼンがあり、プロジェクトや業務内容、留学生の採用についての情報が提供されました。留学生は熱心に聴講し、質問も多くでました。また企業ブースにも留学生が並び、採用情報などを収集し、関心の高さを伺わせました。



企業のプレゼン風景

今回の企業説明会は、土木学会として初めての企画でした。日本企業のグローバル化は多くの産業分野で必須となっており、土木業界以外では留学生採用を積極的に行う企業が増え、留学生向け企業説明会も多数開催されています。留学生グループでは、土木業界においても海外進出の重要性は認識されているものの、大きな力となり得る留学生と企業のマッチングの場は限られていると考えて、まず事前に約30の企業にアンケートを実施し、留学生への企業活動や採用に関する情報提供に関心があることを確認し、本説明会を実施することとしました。また、日本で学ぶ留学生のうち一定数は日本企業に就職することに興味を持ちつつも、十分な機会を提供できていないと考えられます。本企業説明会の参加留学生へのアンケートでも、そのような回答が多くありました。



企業ブースの様子

今回の説明会は、留学生と企業のマッチングの場として、双方に大変好評でした。しかしまだ、日本企業の留学生への認知度は低く、また採用条件も採用数が少ないこともあり、必要な日本語レベルも含め明確でなく、留学生にとっては理解しやすい状態とは言えません。留学生グループでは、継続的(年1回程度)に企業説明会を開催することで、留学生と企業がコミュニケーションできる場を提供していきます。

国際センターの活動

国際センターには上田センター長のもと、情報G、国際交流G、教育G、留学生G、特定テーマGの5つの活動Gがあります。

情報Gは海外各国と日本の間の国際情報の収集、発信が任務であり、早急に成果を上げることが望まれます。留学生Gはサマーシンポジウムの開催を通じて留学生ネットワークの構築を行い、さらに大学等の教育機関、関係教育機関等ではそれぞれの留学生を受け入れており、それぞれ留学生ネットワークを構築しています。これらとの連携がはかられることが望ましいと考えます。



土木学会 会長
橋本 鋼太郎

国際交流Gについては、山川グループリーダーのもと、産・学・官で構成されている11カ国の国別担当チームがあり、交流の促進に中心的な役割を果たしています。さらに、海外支部のもと韓国、台湾、モンゴル、インドネシア等9つの海外分会があります。

また、アジア土木学協会連合協議会（ACECC）には10カ国が加盟し、カンボジアがオブザーバーとして参加しています。3年に1回アジア土木技術国際会議（CECAR）を開催しており、今年8月に第6回CECARがインドネシアのジャカルタで開催されます。

従いまして、各国の土木学協会の連携は、国際交流Gの国別チームを中心に海外分会、各国のACECC事務局、留学生ネットワーク、各国に派遣されている土木技術者、各国大使館等が協力して進める必要があります。そして、ACECCの開催するCECAR、各国の土木学協会年次大会およびシンポジウム、セミナー、ワークショップ、講演会、関係学協会が実施する国際会議等への参加は、積極的に進めるべきです。

今年7月には、ミャンマー工学会（MES）とJSCEの第1回国際シンポジウム「Civil Engineering & Future Infrastructure Development」がヤンゴンで開催されました。日本側からは橋本（会長）、森地元会長、上田センター長、山川次長、清水氏、曾根氏（各ミャンマー担当）が参加しました。ミャンマー側からはDr. Kyaw Lwin 建設大臣、Dr. Win Myint 建設副大臣、Dr. Win Khaing MES会長、Dr. Han Zaw MES前会長等に参加していただき、多数の参加者のもと盛況に行われました。同じく6月に、モンゴル土木学会（MACE）の年次大会に山口担当リーダー他が参加しました。

今後とも国際交流が一層活発に行われることを期待しています。



橋梁工事現場見学の様子(ミャンマー)



管理事務所にて記念撮影(ミャンマー)

土木学会 国際部門担当理事の紹介



主査理事 霜上 民生
一般社団法人近畿建設協会



担当理事 日野 伸一
九州大学



担当理事 池田 清宏
東北大学

イベント情報

- ・ 10/9-12 : ASCE 年次大会 (アメリカ・ノースカロライナ州 シャーロット)
(<http://content.asce.org/conferences/asce-annual2013/>)
- ・ 10/23-25 : KSCE 年次大会 (韓国・江道原)

お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の website (英語版) にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 34 が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>

御協力をお願い

国際センターでは、国際活動に関する“情報発信の強化”を目標に掲げ「国際センター通信」を配信しておりますが、更に配信先を拡大し、皆さまと情報を共有していきたいと考えています。

つきましては、皆さまより周囲の方々へ国際センター通信をご紹介いただき、国際センター通信の定期的配信を希望される方には、次の登録フォームよりご登録いただくよう御案内いただけませんか。何卒、御協力のほどよろしくお願いいたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・ 日本語版 : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・ 英語版 : (http://www.jsce-int.org/pub/registration/non-international_students)
- ・ 英語版 (日本の大学等への留学経験をお持ちの方) : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/30>)

◆掲載記事募集します◆

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。国内外の産学官界に所属する技術者、研究者、行政官および学生等に配信すべきと考える記事を投稿してください。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。

国際センター通信をより充実した、読み応えあるものにして行きたいと考えておりますので、ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

記事投稿の詳細はコチラ>>><http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>

編集後記

猛暑の8月もようやく終わり、少しずつ朝、夕が涼しくなってきました。今回は、ミャンマーでのシンポジウムや留学生向け企業説明会の報告をいたしました。報告の中で一度の開催で終わらず、継続することの重要性が述べられているように感じます。国際センター通信もまずは継続すること、そしてより読者を取り込めるものに成長していきたいと思えます。

【ご意見・ご質問】: JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

